

## 十四カ条／14カ条の原則

第一次世界大戦の講和に向けてアメリカ合衆国大統領ウィルソンが1918年1月に発表し、戦後の国際政治の原則とされた。

第一次世界大戦が開始されると、アメリカ合衆国は当初は中立を維持していた。1917年4月にウィルソン大統領は議会の同意を得てアメリカの第一次世界大戦参戦に踏み切って、連合国（協商国）側の一員となった。アメリカの参戦は大戦の戦況に決定的な影響を与え、連合国側が優勢に転じた。

同じ1917年に3月にロシア革命が始まり、11月にはソヴィエト政権が成立して、レーニンが「平和についての布告」を発表し、即時講和・秘密外交の廃止を宣言、ドイツと単独講和の交渉が始まるという協商国側にとって不利な展開となったため、ウィルソン大統領は、1918年1月議会で演説、次の「14カ条の原則」(the Fourteen Points)を発表し、戦争目的の明確化と戦後処理の方向性を示した。ウィルソンは1919年度のノーベル平和賞を受賞している。

1. 講和交渉の公開・秘密外交の廃止
2. 海洋（公海）の自由
3. 関税障壁の撤廃（平等な通商関係の樹立）
4. 軍備縮小
5. 植民地の公正な処置
6. ロシアからの撤兵とロシアの政体の自由選択
7. ベルギーの主権回復
8. アルザス＝ロレーヌのフランスへの返還
9. イタリア国境の再調整
10. オーストリア＝ハンガリー帝国内の民族自治
11. バルカン諸国の独立の保障
12. トルコ支配下の民族の自治の保障
13. ポーランドの独立
14. 国際平和機構の設立

以上の内、(1)～(4)は**国際協調**、(5)～(9)は国境問題の調整、(10)～(13)が民族自決、(14)が戦後処理の具体的提案（国際連盟）にあたる。

この講和提案を受けて、1918年11月11日に停戦が実現し、第一次世界大戦が終結した。次いで翌1919年、講和会議としてパリ講和会議が始まるが、このウィルソンの提案した新しい国際政治の原則（新外交）は、イギリス・フランスの主張する旧来の外交原則（旧外交）と激しく対立しながら、大筋において実現にこぎ着け、ヴェルサイユ条約が成立する。

（「[世界史の窓](#)」）